

青森県森林病虫害等 防除センターだより

No 51

2018. 12



南部町で発見された松くい虫被害木(青森県林政課提供)

青森県森林病虫害等防除センター

県南地域三戸郡南部町で初めての 松くい虫被害発生

平成30年9月11日、南部町において松くい虫防除監視員から枯死木情報の提供を受け、材片を採取後鑑定したところ、アカマツの枯死木2本からマツノザイセンチュウの陽性反応が検出されました。

マツノザイセンチュウ陽性反応の結果を受けて、被害木周辺半径2km範囲をドローンと目視による調査、半径100m範囲のアカマツに対しヤニ打ち調査を実施し、この調査により発見された全ての枯死木に対し材片採取と鑑定を行った結果、更に3本から陽性反応が検出されました。

その結果、全部で5本の松くい虫被害木が確認されました。



5本の被害木に対し、10月16日痕跡調査を実施したところ、5本中2本からマツノマダラカミキリの幼虫、5本中1本からは産卵痕、5本中3本からは後食痕、そして5本中1本から脱出孔が確認されました。



今後の対応としては、被害木及び調査により発見された枯死木、異常木は11月末までに伐倒・くん蒸処理を実施。

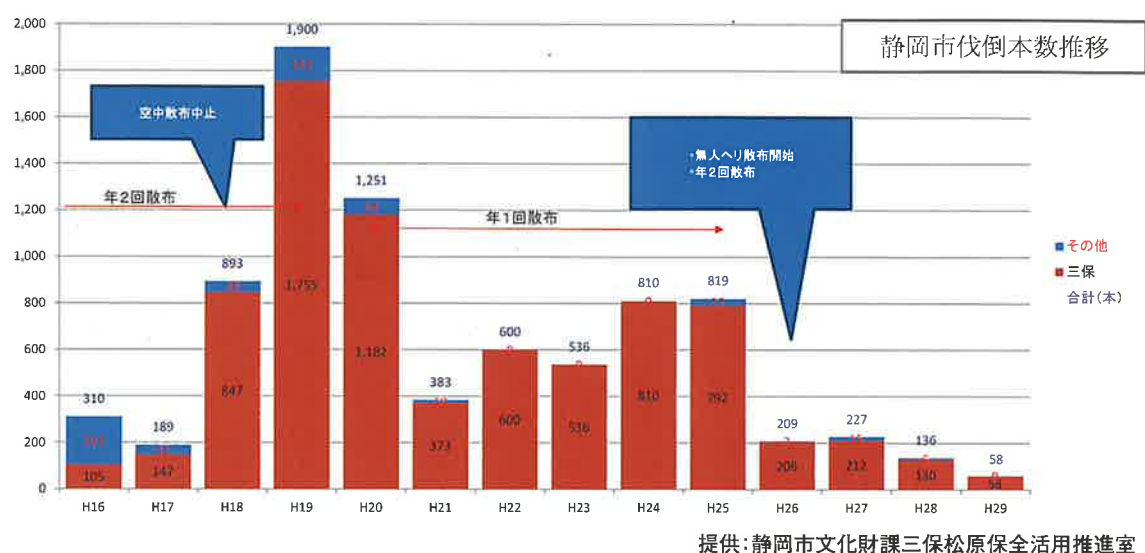
青森県では寒冷地で発生する年越し枯れの可能性があるため、平成31年度からは、監視体制を深浦町と同程度まで強化することとし、ドローンやヘリコプターによる上空探査、地上目視の強化、ヤニ打ち調査等により異常木を発見した場合、伐倒・くん蒸を実施することとなります。



平成30年度 森林病虫害等防除対策調査

平成30年9月20日～21日、標記調査を静岡県静岡市で開催したところ、調査には県、県研究所、森林組合職員14名が参加しました。

初日は静岡市清水区にある「三保の松原」において、静岡市役所文化財課三保松原保全活用推進室の澤野主幹より説明を頂きながら、松くい虫防除対策について調査を実施しました。

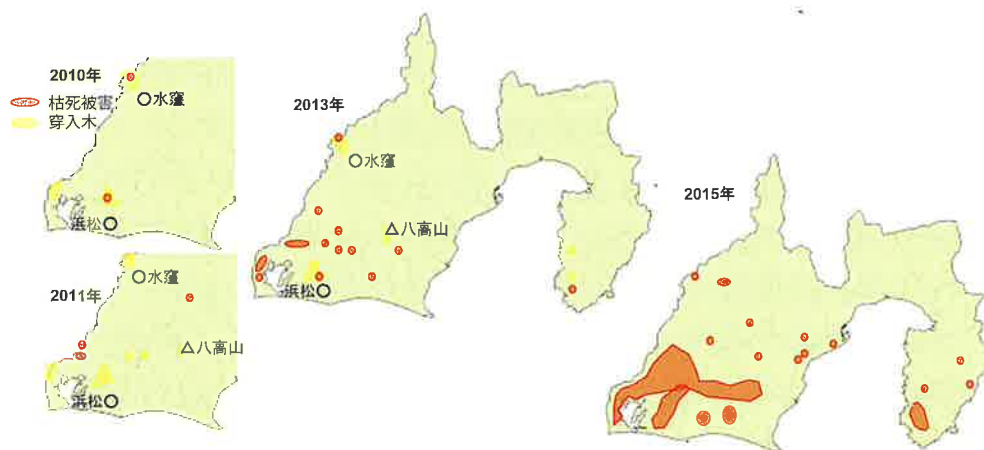


三保の松原では制度改正による空中散布を中止した平成18年度から急激に被害本数が増加してきましたが、継続した被害対策と平成26年度から無人ヘリによる空中散布により、昨年度の被害本数は59本と大幅に減少してきています。

また、三保の松原周辺の住民と協力することで、地元住民から枯れた木についての情報提供や松原内における手入れの要望に対し、協議し、一体となって三保の松原を保全しています。



二日目は静岡市日本平にある森林環境教育施設である「遊木の森」において、静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センターの加藤上席研究員より説明を頂きながら、静岡県内におけるナラ枯れ被害防除対策について調査を実施しました。



ナラ枯れ被害の推移

2008年に浜松市天竜区水窪町の長野県境に近い場所で静岡県初となる穿入生存木が見つかった。

2010年は全国的に激化した年だが、県内で初めて水窪町(3本)と浜松市東区(2本)でナラ枯れ木が発生した。2011年には前年の被害地とは少し離れた天竜区春野町や島田市八高山でナラ枯れ木や穿入生存木が見つかり、北区細江町ではまとまった被害が発生した。2013年には磐田市、森町、袋井市、掛川市で新たな枯死被害が発生したほか、伊豆半島の南伊豆町で枯死被害が、松崎町と西伊豆町で穿入生存木が発生した。2015年には藤枝市や静岡市にまで拡大し、伊豆では南伊豆町や松崎町で被害が激しくなり、新たに東伊豆町や伊豆市でも被害が発生した。

提供: 静岡県森林整備課

静岡県内では平成22年に初めてナラ枯れ被害が発生して以来県内に被害が拡大してきており、主に浜松市で年々被害が拡大していますが、平成30年度時点では県内の3分の2の市町村で被害が確認されている状況となっています。

静岡県での防除方法としては、伐倒駆除や立木くん蒸などの駆除と、カシナガトラップやTWT(トランク・ウィンドウ・トラップ)、殺菌剤注入といった予防方法があります。

静岡県内ナラ枯れ発生状況
(平成30年9月末現在)

提供: 静岡県森林整備課

今回の調査で加藤上席研究員より紹介していただいたTWTを作成するための材料は、通常のクリアファイルとセロハンテープ、ガンタッカーという比較的身近な道具を使用して自作することができるトラップとなっています。

青森県と違う点は、静岡県内におけるナラの種類としてはコナラが多く、本県で多いミズナラではないため、枯死率もそれほど高くはないとのことでした。



平成30年度 ナラ枯れ被害等防除対策現地研修会

平成30年4月26日、山形県森林研究研修センター 齊藤研究主幹が講師となりナラ枯れ被害木の駆除方法について県林政課主催で現地研修会が開催されました。

今回実演したナラ枯れ防除方法は、伐倒くん蒸と立木くん蒸でした。

伐倒くん蒸は、伐倒・玉切り・鋸目の追加・集積し、伐根とともにシートで被覆し薬剤による殺虫となります。この方法は主に足場が確保しやすい場所で行われています。

次に立木くん蒸ですが、立木のままドリルで千鳥格子状に薬剤注入孔を開け、そこに殺虫剤を注入する方法です。立木の根元から高さ50cm程度までは10cm間隔、50cm以上から2m程度の高さまでは20cm間隔で孔を開けていきます。主に足場が確保出来ず、伐倒集積が難しい場所で行われます。



被覆・粘着資材を使用した マツノマダラカミキリ逸出抑制法

平成30年4月27日、森林総合研究所東北支所の中村生物被害研究グループ長が講師となり、山口県農林総合技術センターで開発されたマツノマダラカミキリの逸出抑制法についての現地研修会が開催されました。

この方法は、松くい虫被害材をビニールシートで閉じ込め、マツノマダラカミキリが上部へ集まってくる習性を利用し、粘着ネットで補虫するという方法です。

従来のくん蒸処理と異なる点は、第1に薬剤を使用しない、第2にビニールシートが農業用のもので良く、なおかつ破損箇所がなければ再利用可能な点、第3に薬剤を使用しないため、ビニール端を気体が漏れないよう、埋める必要がない点にあります。

青森県内では使用した事例はありませんが、使用する場合の注意点としては、①強風への対策と②薬剤による殺虫機能がないため、二年一化（2冬幼虫で越冬し2年目に羽化すること）の個体もいるため、2夏の被覆と定期的な巡視による破損箇所の補修が必要となります。



平成30年度青森県松くい虫被害対策検討会

平成30年7月26日、深浦町内において「平成30年度第1回青森県松くい虫被害対策検討会」、平成30年11月1日、11月2日に青森市内と南部町において「平成30年度第2回青森県松くい虫被害対策検討会」が県林政課主催で開催されました。

検討会の概要としましては、深浦町について被害区域は広戸・追良瀬地区に留まっていますが、地区内での被害木の発生場所が前年度の被害発生場所から広がってきています。

被害本数については減少傾向にありますが、引き続き早期発見・早期駆除の徹底を図り、関係者が一体となって対策を行っていくことで一致しました。

南部町については、県南地域初めて発生した被害ということで、被害発生木及び被害発生木周辺の枯死木・異常木については伐倒・薫蒸処理を行い、三八管内において今後は深浦町を含む西北地域と同様にヘリコプターやドローン、特別巡視員による監視強化、早期発見・早期駆除の徹底を行っていく旨説明がありました。

平成30年度青森県ナラ枯れ被害対策検討会

平成30年11月1日、青森市内において「平成30年度青森県ナラ枯れ被害対策検討会」が県林政課主催で開催されました。

検討会の概要としましては、ナラ枯れ被害は民有林においては年々増加傾向にあり、国有林は昨年度より減少していますが、依然として被害は発生しています。

H30シーズンにおいては、従来までの被害はミズナラでしたが、新たにカシワ、コナラ、クリにも被害が発生しています。

被害木の駆除対策としては、伐倒・くん蒸、立木くん蒸、ビニール被覆の3種類で対応しており、立木くん蒸が主となっています。

今後の対応としましては、東北森林管理局と連携し、駆除の徹底、未被害木利用促進について市町村と連携し取り組む、被害が予想される地域へ注意喚起を徹底することとなりました。

● 発 行 ●

青森県森林病虫害等防除センター

青森市松原一丁目16番25号 青森県森林組合連合会内

TEL 017-723-2657 FAX 017-723-1505

<http://www.aomori-pfau.or.jp/>